

ふるさと奥尻通信

平成28年6月30日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

沖つ風こさなきはらえうつし絵に うつさまほしき奥尻の島
松浦武四郎 弘化2年奥尻調査の日記に

特集 ここがすごいぞ奥尻島！

おかげさまで、「ふるさと奥尻通信」も100号を迎えました。毎回、奥尻にまつわる出来事を掘り深めてきましたが、今回は奥尻島の特にスバラシイところをアピールします！

奇岩「鍋釣岩」

奥尻島のシンボルで、町指定文化財にも登録されている奇岩です。海底で固まった溶岩(安山岩)が、島の隆起で海上に現れ、次第に浸食されてリング状になったもの。

「なべつるカレー」

その奥尻のシンボルを型どったご当地カレー。アワビ、ホタテ、エビ、イカなどの海鮮がゴロゴロ入っています。岩の頭に生えている植物(ヒロハノヘビノボラズ)を再現しているところもちゃんと再現しています。

「オクシリブルー」

晴れた夏の日、奥尻の海岸線でみられる独特の青さ。波が穏やかなほど透明度が増します。東海岸の長浜は、白い花崗岩の丸石が続きますので、より透明感があります。石はゴマ石と呼ばれ漬物石に最適です。



地酒「奥尻」



丁字頭勾玉

「奥尻ワイン」

平成21年(2009)デビューのワイン。ブドウ栽培から醸造、製品化まで自社で行っているのは、北海道内でも数えるほどしかなく、離島で行っているのは、全国的に見ても奥尻だけでしょう。

地酒「奥尻」

平成27年(2015)デビューの特別純米酒。奥尻島産酒造好適米「吟風」を100%使い、島の名峰神威山の伏流水で仕込んだ酒。肴はもちろんホヤの塩辛。

ブナの森

島の8割は森林で、その大部分を占めるのがブナ。ブナは保水力があり、毎年の落葉により腐葉土を形成します。島の土壌は栄養分が高く、枯れることのない河川が、海の養分を豊富にします。「魚つきの森」と呼ばれています。

「丁字頭勾玉」 ちょうじがしらまがたま

青苗遺跡出土の勾玉で、長さ5cmもある優品。原石は新潟糸魚川周辺のヒスイで、古墳時代前期(3世紀後半～4世紀半ば)に加工され、どうしたものか遠い奥尻島まで伝わってきたもの。「日本書紀」に書かれた阿倍比羅夫の遠征に関わる品との説もあり。

奥尻人

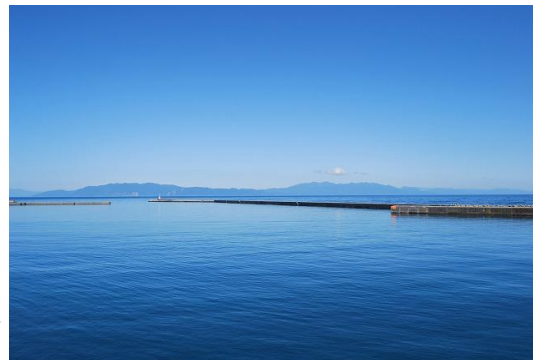
奥尻島民は親切な人が多い。バスを逃して道をとぼとぼ歩いていたら、必ず声をかけてくれるはず。パンクして自転車押したら、必ず軽トラに乗ってくれればはず。匂のものがあつたら、ついついたくさん食べさせたくなっちゃうのです。翌年また島を訪れたら、また来たのか！あんたも変わりもんだな！と言ってもてなしてくれるはず。それが奥尻島人なのです。



シンボルの鍋釣岩 町指定文化財



なべつるカレー



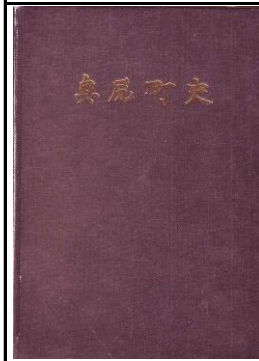
青い海と蒼い空



ブナの森



島の北端稲穂岬(賽の河原)にピクニックやってきた若者たち。愛車は東洋工業(マツダ)の初代ファミリアセダン800に見えます。後方には稲穂灯台がみえますが、灯台の職員官舎などの建物群が規模縮小されて、数が減っているので昭和40年代中頃か。道南五大霊場に数えられた奥尻島の賽の河原は、この頃はまだ公園整備がなされておらず、岬先端に無数の石積と卒塔婆、地蔵を祀ったお堂があるだけでしたから、独特の雰囲気醸し出していました。また、岬の周囲には天然のアヤメやエゾカンゾウなどが咲き、観光客の目をたのしませたそうです。その再現を目指して、毎年、稲穂ふれあい研修センターのグラウンドにアヤメを植えています。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

奥尻町史
奥尻町

奥尻島のことを深く、詳しく知りたい人は先ず、コレを読むべし。昭和44年刊行の島のバイブル。基となったのは、町史編纂委員を長く務め、晩年は病床から町史刊行に尽力した三国十次郎の草稿。三国の逝去により、急きよ取りまとめて刊行されたため、記述に不十分な個所もあるが、奥尻島研究の基礎資料となるもの。後に刊行された「新奥尻町史」の礎に。

月刊 奥尻のつり 6月号

今年は季節のサイクルが1~2週間早いため、釣りの暦も少々ずれてきたようです。例年ですと、6月上旬までがカレイ釣り、中旬以降は7月までが沖のソイ釣りの季節です。今年はそのへこ魚を追ってフクラギ、イナダが姿を現し、沖では100cm級のブリもみられました。良型のヒラメも続いており、幌内湾や宮津港ではアングラーが盛んにロッドを振っています。1日より夏イカ漁が解禁となり、漁火が綺麗に並んでいます。序盤は奥尻海峡に群れが通過しているようで、他町のイカ釣り船もたくさん集まっています。このころが一番漁火が集中しているので、綺麗な夜景を見ることができます。球島山の展望台へ登ってみてください。砂場ではヘラガニの動きも活発で、エサ取りされて困りますが、逆にそれを釣りに浜へ降りる人もちらほら。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つし1ヶ月 第10回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「島の子」第八号より
てて音飛帰い方だ縄緒け顔切を引う五め械
いし響んるかな〜でにて心れ機 っな六てか 一
たまくだのない泣大落見配て械張っ回引け石
。っ。だい落さし下た顔しをるた繰るに
た錨左。のちたたしらにまかよりり張とも
。取に船でたい金で八なっけりぐ返っでも
大りもの機も様だし十ったた他んした機引
人で右上械のな、ま尋て。などたが械っ
はずにををを気困っば叫ワブい機が同を掛
疲っも鷗か取持ったかんツツの械駄じかけ
れか帰がけるちた。りだへへでを目だけた
てりる二たわだもへ錨。とと、かだってな
眠遅船三。け。ん錨と縄皆纏うけ。た又、
っれの羽 に仕 や一上のがんでこ。止機

れご六ま次情のこしこは奥
ま参月す回を正とたと、尻六
す加十。の思直が。な初ム月
よく七次開うで最くめ一十
。だ日回催としき後、てン八
さではに、た、は無雨ラ日号
いす平も安。ま月事にイ号
。成弾堵関さ明に泣ト砲の第
きふ二みと係にり終かマの第
つる十にと者三も了さラ第三
とつ九なもの度見しれソ三
晴て年りに心目るまるン回

三度目の正直で晴れる



タヌキ先生登場!

提教用でキのにしかがま又場り
言育すもを、な、ら生しキ千一六
がのるあ観国内可来国し。生さん二
り材の察内可来国し。生さん二
り料でたで能的内て島態んス日
まとはめき容性に外いににが学、
しすな、る易がは来なはつ、芸伊
たべく単唯にあ駆種か元い奥員達
。き、に一野る除につ々て尻で市
、外觀の生もの該たタ講島あ
と来光場タの対当こ又演のるフ
の種利所又 象 とキシタ羽

タヌキの生態くわしく

年したもか教ちのたぎ朗成
目くし多らえやお、学二気
のおま々貴てんじ取芸十が
し願すあ重も方い材ツ員三
んい。りならにちすコから年
たいこまおいはやるツらには
たれし話ま色、ん過続制前百
しかた。資た。なおで、き木
すも感料。情ば、島報あ島ま
へよ謝提島報あ島まき村
六ろい供外を 内し継哲平

新表之記録(編集後記)

大千会るこし奪ぜ子校広参祭
会代で子れい相ひ児六島加り六
での、供はと撲と童年相し協月
す。富福を福高大会取の同佐行事
。士島対島く会一千里部志藤二
の町象町評。千り部志藤二日
名出とで価へ代組で(会)清の
前身しおし出のみ優が幸相
をのたこま場富を勝が幸相
冠大相なしし士見し、ん大
し横撲わたて杯てた小へ会
た綱大れ。ほ争、女学北に原

相撲大会へスカウト



うにまるシール(非売品)